

地形模型 村上要害復元模型

当館では、「歴史を目で判るように」ということから地形模型の制作を行ってきました。

村上城は近世の城郭の要素と中世城郭の要素を残す城跡ですが、この中世城郭の遺構を復元模型によって知ってもらいたいと制作したものです。

この復元模型の制作にあたっては、村上城跡の遺構調査報告書や慶長2年の「瀬波郡絵図」に描かれている「村上要害」の様子などを参考にして、市史編さん専門員の先生の指導協力を得ながら作成したものです。



地形模型 村上城籠城戦復元模型

本庄繁長が上杉謙信に謀反し、約 300 日籠城して戦ったときの地形や出城、戦いのあった場所などを模型上に示したものです。

これにより、この戦いは単なる局地戦ではなく、広域的な戦いであったことを模型上で表現すること。また、現在は神納平野の一部となっていますが、当時は岩船潟という大きな湖があり、現在の七湊（ななみなと）や助淵（すけぶち）という地名もその岩船潟から由来していることを模型上で示したものです。



地形模型 十五里原（じゅうごりがはら）の戦い 復元模型

十五里原の戦いは、本庄繁長が庄内へ侵攻し、最上義光（よしあき）に大勝した戦いのことですが、その背景には、庄内をめぐる上杉・本庄 VS 最上、さらに最上氏(居城山形)の勢力が強くなると困る伊達氏(居城米沢)の思惑が交差していました。

また、現在の地名でいえば村上・鶴岡・山形・米沢を舞台とした情報戦という一面もありました。実際に地形模型の上で考えると、私たちが思う以上に、情報の伝達が早かったのではないかと思います。



地形模型 村上城復元模型

この復元模型は、村上出身の方が作られて当館に寄贈いただいたものです。

現在は石垣のみを残していますが、村上の人であれば、お城山(村上城跡)に「城」があったならと一度は思った人が多いことと思います。なぜかこの復元模型を見ていると、遠く故郷を離れている方々の「お城山」に対する思いが伝わって来るような気がします。

なお、この模型の近くの窓からは、村上城跡が望めるようになっております。



地形模型 村上城下復元模型

幕末の城下絵図を元に地形模型として復元したものです。

村上城下は河岸段丘をうまく利用した町でした。その村上城下を平面的な絵図だけでなく、河岸段丘などの高低差が判るような立体的な城下絵図にしようと試みたのがこの村上城下復元模型です。基本的には 2500 分の 1 の地図を元にしてしますので、現在の地形図に重ね合することができます。

